

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

| | |
|--------------|---|
| 製品名 | Human Dkk-1 Biotinylated Fluorokine Kit |
| コンポーネント名 | Biotinylated rhDkk-1, Blocking Antibody |
| 製品コード | RSD社 商品コード:NFDKK1 |
| 会社名 | フナコシ株式会社 |
| 住所 | 東京都文京区本郷2-9-7 |
| 担当部門 | コンプライアンス室 |
| 電話番号 | 03-5684-5107 |
| FAX番号 | 03-5802-5218 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 研究用試薬 |
| 整理番号 | PIS0338V02A (2011/5/17) |

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

| | |
|-----------|---|
| 物理化学的危険性 | 火薬類 区分外 可燃性／引火性ガス 分類対象外 可燃性／引火性エアゾール 分類対象外 支燃性／酸化性ガス類 分類対象外 高圧ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 タイプG 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類対象外 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) 区分2 急性毒性(経皮) 区分1 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 分類できない 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性／刺激性 区分1C 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 区分1 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分外 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分1(循環器系) 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分1(肝臓 循環器系) |
| 環境に対する有害性 | 吸引性呼吸器有害性 分類できない 水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(慢性) 区分1 オゾン層有害性 分類できない |

GHSラベル要素
シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
 飲み込むと生命に危険
 皮膚に接触すると生命に危険
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 循環器系の障害
 長期又は反復ばく露による肝臓、循環器系の障害

注意書き
安全対策

水生生物に強い毒性
 長期的影響により水生生物に強い毒性

粉じんを吸入しないこと。
 眼、皮膚、衣類に付けないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
 ばく露した場合、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
 漏出物は回収すること。
 施錠して保管すること。
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管
廃棄

分類に関係しない他の危険有害性
 GHSで扱われない他の危険有害性
 国・地域情報
 重要危険有害性
 特有の危険有害性

医薬用外毒物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学特性 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|----------|----------|------|----------|-----|------------|
| | | | 化審法 | 安衛法 | |
| アジ化ナトリウム | 9.6% | NaN3 | (1)-482 | | 26628-22-8 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

皮膚を速やかに洗浄すること。

医師に連絡すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

吸入: 咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、血圧降下、意識喪失。皮膚: 発赤、水泡。眼: 発赤、痛み。経口摂取: 腹痛、吐き気、発汗(他の症状については「吸入」参照)。

最も重要な兆候及び症状
 応急措置をする者の保護
 医師に対する特別注意事項

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤
 特有の危険有害性

水

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

容器を水噴霧で冷却し、危険でなければ安全な地域に移す。

移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

容器が強熱条件下にある時、水噴霧による冷却は無人のモニター放水ノズルを用いて行う。

消火活動は、爆発に対し防護された場所から、十分な距離をとって行う。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

低地から離れる。

風上に留まる。

密閉された場所は換気する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項

環境中に放出しない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和

こぼれた物質をプラスチック容器内に掃き入れる。湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。

残存物(特に水溶液)を乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って密閉容器入れ、安全な場所に移す。

危険でなければ漏れを止める。

封じ込め及び浄化方法・
機材

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

安全取扱い注意事項 換気の良い場所で取り扱うこと。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

飲み込まないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

眼、皮膚又は衣類に付けないこと。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

環境への放出を避けること。

接触回避

保管

技術的対策

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所内の温度を危険物が発火する温度に達しない温度に保つ構造とし、又は通風装置、冷房装置等の設備を設けること。

混触危険物質

「10. 安定性及び反応性」参照。

| | |
|--------|---|
| 保管条件 | 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。 冷所、換気の良い乾燥した場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 適切な温度を超えない温度で保管すること。 他の物質から離して保管すること。 施錠して保管すること。 |
| 容器包装材料 | 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 |

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

| | 管理濃度 (厚生労働省) | 許容濃度 (産衛学会) | ACGIH |
|----------|-----------------|----------------|------------------|
| アジ化ナトリウム | 未設定 | 未設定 | STEL C 0.29mg/m3 |

設備対策 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

| | |
|------------------|--|
| 呼吸器の保護具 手の保護具 | 適切な保護手袋を着用すること。 ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。ネオプレンが推奨される。 飛沫がとぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣(耐酸スーツ等)を着用する。 |
| 眼の保護具 | 適切な眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。 |

衛生対策

一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状態

| | |
|--------------|-------------------|
| 形状・色 | 無色ないし白色の六方晶系の結晶。 |
| 臭い | 無臭 |
| pH | 10 (65g/l, 25°C) |
| 融点／凝固点 | 275°C |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 300°C (分解) |
| 引火点 | データなし |
| 自然発火温度 | 380°C (>97%) |
| 燃焼性(固体、ガス) | データなし |
| 燃焼又は爆発範囲 | データなし |
| 蒸気圧 | 0.0075mmHg (20°C) |
| 蒸気密度 | データなし |

| | |
|---------------------|--|
| 蒸発速度(酢酸ブチル=1) | データなし |
| 比重(密度) | 1.850 (25°C)(水=1) |
| 溶解性 | 水に易溶。 水:39g/100ml(0°C), 水:55g/100ml(100°C) |
| オクタノール/水分配係数 | データなし |
| 分解温度 | 300°C |
| 粘度 | データなし |
| 10. 安定性及び反応性 | |
| 安定性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 危険有害反応可能性 | 感熱性で、火災時などに容器爆発の恐れがある。融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがある。 酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する多くの重金属(鉛、真ちゅう、銅、水銀、銀)及びその塩類と接触すると火災の危険性がある。またきわめて鋭敏な爆発性の塩を生じる。 急激な加熱、混触危険物質との接触。 酸、臭素、銅、鉛、ホスゲン。 窒素酸化物、ナトリウム/酸化ナトリウム。 |
| 避けるべき条件 | |
| 混触危険物質 | |
| 危険有害な分解生成物 | |
| その他 | |
| 11. 有害性情報 | |
| 急性毒性 | |
| | 類推値 |
| | 実測値 |
| | 経口 |
| | ラットの経口LD50値が27mg/kgであることから区分2とした。 |
| | 経皮 |
| | ウサギの経皮LD50値が20mg/kg である (ACGIH (2001)) ことから区分1とした。 |
| | 吸入(気体) |
| | (GHS定義での)固体。 |
| | 吸入(蒸気) |
| | 常温での蒸気圧 (1Pa) はラットの吸入LC50 (37mg/m ³) (RTECS (2004)) に達しない。 |
| | 吸入(粉塵・ミスト) |
| | 情報不足で分類できない。RTECS (2004) の情報は暴露形態が明確でない(粉塵、分解ガス)。 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 動物試験結果・4時間接触で腐食性 (DFGOT vol.20 (2003)) から区分1Cと判定した。 |
| 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | 皮膚腐食性が区分1Cなので、眼も区分1とした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 感作性に関する十分な情報なし。 |
| 生殖細胞変異原性 | In vitro微生物変異原性試験での陽性結果があるものの、in vitro哺乳類細胞変異原性試験では陰性で、さらに哺乳類in vivo試験データがないことから「分類できない」とした。強い変異原性は微生物と植物に特有のもののみなされている。(DFGOT vol.20 (2003)) 専門家のコメントには In vivo イエバエでの結果から「区分2」という意見もあったが、最終的に「分類できない」が結論となった。 ACGIHでA4と判定されているので区分外とした。 判定に十分な情報がない。 |
| 発がん性 | |
| 生殖毒性 | |

特定標的臓器毒性(単回暴露)

ヒトについて、血圧低下(かつては治療薬として使用された)と、その呼吸器・消化器等への副作用と見られる事例が多数あることから区分1とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

ヒトで高血圧の治療に長期使用した際、一部の患者に感受性の増大が見られた(ACGIH(2001)) こと、動物実験で10mg/kg・day以下の投与量で肝臓への影響が見られたので区分1とした。

吸引性呼吸器有害性
有害性その他

データが得られず分類できない。

12. 環境影響情報

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)

魚類(ブルーギル)の96時間LC50=0.7mg/L (HSDB、2004)から、区分1とした。

水生環境有害性(慢性)

急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるもの(log Kow ≤ 0.3(既存化学物質安全性点検データ)、急速分解性がない(直接測定(HPLC)による分解度:1%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分1とした。

オゾン層有害性

データがなく分類できない。

生態毒性

魚毒性/その他

残留性

分解性

生態蓄積性

土壤中の移動性

環境影響その他

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。

汚染容器及び包装

情報なし。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類

6.1

国連番号

1687

品名(国際輸送品名)

アジ化ナトリウム

容器等級

II

海洋汚染物質

該当しない。

国内規制

該当しない。

追加の規制

特別安全対策

緊急時応急措置指針番号

153

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

アジ化ナトリウム 政令番号:11

毒物及び劇物取締法

毒物(指定令第1条)

アジ化ナトリウム

労働安全衛生法

危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号)
アジ化ナトリウム名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57
条の2、施行令第18条の2別表第9)
アジ化ナトリウム 政令番号:9

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

16. その他の情報
参考文献経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
GHS対応ガイドライン(改定2版)
日本ケミカルデータベース ezCRIC
安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
MSDS SIGMA ALDRICH (Cat#71290)
THE MERCK INDEX 13TH.EDITION

その他

- ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。
- ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
- ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

| | |
|--------------|---|
| 製品名 | Human Dkk-1 Biotinylated Fluorokine Kit |
| コンポーネント名 | Cell Wash Buffer |
| 製品コード | RSD社 商品コード:NFDKK1 |
| 会社名 | フナコシ株式会社 |
| 住所 | 東京都文京区本郷2-9-7 |
| 担当部門 | コンプライアンス室 |
| 電話番号 | 03-5684-5107 |
| FAX番号 | 03-5802-5218 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | 研究用試薬 |
| 整理番号 | PIS0338V02A (2011/5/17) |

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

| | |
|-----------|---|
| 物理化学的危険性 | 火薬類 区分外 可燃性/引火性ガス 分類対象外 可燃性/引火性エアゾール 分類対象外 支燃性/酸化性ガス類 分類対象外 高圧ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 タイプG 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類対象外 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口) 区分2 急性毒性(経皮) 区分1 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 分類できない 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性/刺激性 区分1C 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分外 生殖毒性 分類できない 特定標的臓器毒性(単回暴露) 区分1(循環器系) 特定標的臓器毒性(反復暴露) 区分1(肝臓 循環器系) |
| 環境に対する有害性 | 吸引性呼吸器有害性 分類できない 水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(慢性) 区分1 オゾン層有害性 分類できない |

GHSラベル要素
シンボル注意喚起語
危険有害性情報

危険

飲み込むと生命に危険
皮膚に接触すると生命に危険
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
循環器系の障害
長期又は反復ばく露による肝臓、循環器系の障害

注意書き
安全対策

水生生物に強い毒性

長期的影響により水生生物に強い毒性

粉じんを吸入しないこと。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
ばく露した場合、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
漏出物は回収すること。
施錠して保管すること。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

保管
廃棄

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

医薬用外毒物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学特性 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|----------|----------|------|----------|-----|------------|
| | | | 化審法 | 安衛法 | |
| アジ化ナトリウム | 1.0% | NaN3 | (1)-482 | | 26628-22-8 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

皮膚を速やかに洗浄すること。

医師に連絡すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

吸入：咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、血圧降下、意識喪失。皮膚：発赤、水疱。眼：発赤、痛み。経口摂取：腹痛、吐き気、発汗（他の症状については「吸入」参照）。

最も重要な兆候及び症状
 応急措置をする者の保護
 医師に対する特別注意事項

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤
 特有の危険有害性

水

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

容器を水噴霧で冷却し、危険でなければ安全な地域に移す。

移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

容器が強熱条件下にある時、水噴霧による冷却は無人のモニター放水ノズルを用いて行う。

消火活動は、爆発に対し防護された場所から、十分な距離をとって行う。

消火を行う者の保護

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

低地から離れる。

風上に留まる。

密閉された場所は換気する。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項

環境中に放出しない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和

こぼれた物質をプラスチック容器内に掃き入れる。湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。

残存物(特に水溶液)を乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って密閉容器入れ、安全な場所に移す。

危険でなければ漏れを止める。

封じ込め及び浄化方法・
機材

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

局所排気・全体換気

安全取扱い注意事項

換気の良い場所で取り扱うこと。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

飲み込まないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

眼、皮膚又は衣類に付けないこと。

粉じん、ヒュームを吸入しないこと。

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

環境への放出を避けること。

保管

接触回避

技術的対策

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所内の温度を危険物が発火する温度に達しない温度に保つ構造とし、又は通風装置、冷房装置等の設備を設けること。

混触危険物質

「10. 安定性及び反応性」参照。

保管条件 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。
冷所、換気の良い乾燥した場所で保管すること。
容器を密閉して保管すること。
適切な温度を超えない温度で保管すること。
他の物質から離して保管すること。
施錠して保管すること。

容器包装材料 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

| | 管理濃度 (厚生労働省) | 許容濃度 (産衛学会) | ACGIH |
|----------|-----------------|----------------|------------------|
| アジ化ナトリウム | 未設定 | 未設定 | STEL C 0.29mg/m3 |

設備対策 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。
ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。ネオプレンが推奨される。
飛沫がとぶ可能性のあるときは、全身の化学用保護衣(耐酸スーツ等)を着用する。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。
化学飛沫用のゴーグル及び規格にあった顔面保護具を着用すること。
安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策

一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状态

形状・色
臭い
pH

無色ないし白色の六方晶系の結晶。
無臭

融点／凝固点

10 (65g/l, 25°C)
275°C

沸点、初留点及び沸騰範囲

300°C (分解)

引火点

データなし

自然発火温度

380°C (>97%)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.0075mmHg (20°C)

蒸気密度

データなし

| | |
|---------------------|--|
| 蒸発速度(酢酸ブチル=1) | データなし |
| 比重(密度) | 1.850 (25°C)(水=1) |
| 溶解性 | 水に易溶。 水:39g/100ml(0°C), 水:55g/100ml(100°C) |
| オクタノール/水分配係数 | データなし |
| 分解温度 | 300°C |
| 粘度 | データなし |
| 10. 安定性及び反応性 | |
| 安定性 | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。 |
| 危険有害反応可能性 | 感熱性で、火災時などに容器爆発の恐れがある。融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがある。 酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する多くの重金属(鉛、真ちゅう、銅、水銀、銀)及びその塩類と接触すると火災の危険性がある。またきわめて鋭敏な爆発性の塩を生じる。 急激な加熱、混触危険物質との接触。 酸、臭素、銅、鉛、ホスゲン。 窒素酸化物、ナトリウム/酸化ナトリウム。 |
| 避けるべき条件 | |
| 混触危険物質 | |
| 危険有害な分解生成物 | |
| その他 | |
| 11. 有害性情報 | |
| 急性毒性 | |
| | 類推値 |
| | 実測値 |
| | 経口 |
| | ラットの経口LD50値が27mg/kgであることから区分2とした。 |
| | 経皮 |
| | ウサギの経皮LD50値が20mg/kg である (ACGIH (2001)) ことから区分1とした。 |
| | 吸入(気体) |
| | (GHS定義での)固体。 |
| | 吸入(蒸気) |
| | 常温での蒸気圧 (1Pa) はラットの吸入LC50 (37mg/m ³) (RTECS (2004)) に達しない。 |
| | 吸入(粉塵・ミスト) |
| | 情報不足で分類できない。RTECS (2004) の情報は暴露形態が明確でない(粉塵、分解ガス)。 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 動物試験結果・4時間接触で腐食性 (DFGOT vol.20 (2003)) から区分1Cと判定した。 |
| 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 | 皮膚腐食性が区分1Cなので、眼も区分1とした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 感作性に関する十分な情報なし。 |
| 生殖細胞変異原性 | In vitro微生物変異原性試験での陽性結果があるものの、in vitro哺乳類細胞変異原性試験では陰性で、さらに哺乳類in vivo試験データがないことから「分類できない」とした。強い変異原性は微生物と植物に特有のもののみなされている。(DFGOT vol.20 (2003)) 専門家のコメントには In vivo イエバエでの結果から「区分2」という意見もあったが、最終的に「分類できない」が結論となった。 ACGIHでA4と判定されているので区分外とした。 判定に十分な情報がない。 |
| 発がん性 | |
| 生殖毒性 | |

特定標的臓器毒性(単回暴露)

ヒトについて、血圧低下(かつては治療薬として使用された)と、その呼吸器・消化器等への副作用と見られる事例が多数あることから区分1とした。

特定標的臓器毒性(反復暴露)

ヒトで高血圧の治療に長期使用した際、一部の患者に感受性の増大が見られた(ACGIH(2001)) こと、動物実験で10mg/kg・day以下の投与量で肝臓への影響が見られたので区分1とした。

吸引性呼吸器有害性
有害性その他

データが得られず分類できない。

12. 環境影響情報

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)

魚類(ブルーギル)の96時間LC50=0.7mg/L (HSDB、2004)から、区分1とした。

水生環境有害性(慢性)

急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるもの(log Kow ≤ 0.3(既存化学物質安全性点検データ)、急速分解性がない(直接測定(HPLC)による分解度:1%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分1とした。

オゾン層有害性

データがなく分類できない。

生態毒性

魚毒性/その他

残留性

分解性

生態蓄積性

土壤中の移動性

環境影響その他

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。

汚染容器及び包装

情報なし。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類

6.1

国連番号

1687

品名(国際輸送品名)

アジ化ナトリウム

容器等級

II

海洋汚染物質

該当しない。

国内規制

該当しない。

追加の規制

特別安全対策

緊急時応急措置指針番号

153

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

アジ化ナトリウム 政令番号:11

毒物及び劇物取締法

毒物(指定令第1条)

アジ化ナトリウム

労働安全衛生法

危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号)
アジ化ナトリウム名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57
条の2、施行令第18条の2別表第9)
アジ化ナトリウム 政令番号:9

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

16. その他の情報
参考文献経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
GHS対応ガイドライン(改定2版)
日本ケミカルデータベース ezCRIC
安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
MSDS SIGMA ALDRICH (Cat#71290)
THE MERCK INDEX 13TH.EDITION

その他

- ◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。
- ◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
- ◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。